

	H30決算	R1決算	R2決算	R3決算	R4予算	R5予算
①被保険者数（人）	202,834	197,109	194,347	191,845	189,973	187,653
（対前年増減）		-2.82%	-1.40%	-1.29%	-0.98%	-1.22%
②一人当たり医療費（円）	357,953	377,557	361,253	386,517	400,646	419,448
（対前年増減）		5.48%	-4.32%	6.99%	3.66%	4.69%
③事業費納付金（千円）	25,462,530	25,335,120	24,097,104	23,359,741	24,330,421	25,838,479
（対前年増減）		-0.50%	-4.89%	-3.06%	4.16%	6.20%
④一人当たり保険料（円）	83,287	85,638	80,954	82,277	82,635	<u>90,486</u>
（対前年増減）		2.82%	-5.47%	1.63%	0.44%	9.50%
⑤基金取崩し額（千円）	18	591,671	689,440	862,889	1,315,840	1,343,322
（対前年増減）		—	16.52%	25.16%	52.49%	2.09%

※R5の①②④は推計値

○令和5年度の一人当たり保険料が増加すると見込む理由

- ・直接的には、本市から県に対する③事業費納付金が、前年度の約243億円から約258億円に大きく増えたことによる。
- ・③事業費納付金は前々年度（令和3年度）の②医療費の増減等に影響されるため、令和5年度に納付金が増加する原因は、令和3年度の②医療費が2年度より大きく伸びていること等による。これはコロナ感染拡大による受診控えの反動が表れているものと考えられる。
- ・これに、①被保険者数の減少の影響をあわせ、④一人当たり保険料負担が増加するものと見込んでいる。

○なお、令和6年度以降に取り崩す予定としていた剰余金約4.7億円のうち、約2.6億円を令和5年度に前倒しで取り崩すこととし、

- ⑤基金から総額約13億円を充てることで、保険料の上昇を抑制することとする。